

私たちの活動を
知ってください

北潟湖自然再生協議会の取り組み

～北潟湖の恵みを再発見し、未来に遺そう～

北潟湖自然再生協議会では、北潟湖および周辺の自然環境の保全・再生に取り組んでいます。昨年12月に開催した「北潟湖 水と水辺のシンポジウム」には、地域の皆さんや協議会活動参加者など70人が参加し、北潟湖の水質改善と水辺環境の自然再生について、専門家による講演などが行われました。その内容の一部をご紹介します。



▲北潟湖再生協議会ホームページ

北潟湖と共に未来



▲パネルディスカッション

北潟湖漁業協同組合や専門家によるパネルディスカッションでは、北潟湖の再生に向けて、地域と専門家が協力する重要性を共有しました。

再発見！北潟の大自然



▲北潟小5・6年生による発表

北潟小学校の5・6年生が、総合学習で取り組んでいる活動について発表しました。

これまでの取り組み

水について考える

北潟湖や湧水から採水し、透明度や成分を調査しました。湖水をろ過した水と比較し、見た目が透明でも必ずしも水質が改善したわけではないことを、実験を通して学びました。また、事前にかご罟を設置し、湖内に生息する生き物の観察も行いました。



▲採水の様子

いろいろな生きものを守る

- ・県立大学の学生や地元の皆さんと協力し、特定外来生物であるオオキンケイギクを除去しました。年1回でも集中的に除去を続けることは効果的で、北潟公民館前のオオキンケイギクは根絶目前です。
- ・北潟湖周辺のため池に生息する希少な水生昆虫を保全するため、生態系に影響を与える特定外来生物のウシガエルとアメリカザリガニの駆除を行っています。



会員募集

一緒に活動に参加してくれる人や団体を募集しています。希望する人や興味のある人は事務局までご連絡ください。北潟湖自然再生協議会事務局（生活環境課内） ☎ 73-8018 ✉ seikatsu@city.awara.lg.jp

北潟湖を活用する

北潟湖やその周辺地域と連携したツアープログラムの実施に向け、実際に行程を検証し、課題を整理しました。



▲ツアープログラムの検証

知る機会・学ぶ機会をつくる

- ・北潟湖周辺の湿地を探索し、かご罟で捕獲したアメリカザリガニやドンコ、タニシなどを観察しました。
- ・アカミミガメやブルーギル、ライギョ、モクズガニ、テナガエビなどを観察しながら、北潟湖に生息する多様な生物と外来種の問題について学びました。
- ・地元小学校の総合学習（環境教育）への協力も行っています。



▲かご罟で捕獲した生物を観察する ▲外来種の問題について学ぶ
▲オオキンケイギクの除去

市内河川と北潟湖の水質調査

市では、市内を流れる河川および北潟湖の水質調査を実施しています。令和7年度に実施した調査の結果をお知らせします。今後も、調査結果や蓄積したデータを活用し、環境保全に努めます。

問合せ 生活環境課 環境 G ☎ 73-8018

令和7年度 河川水質分析調査結果 令和7年9月9日 晴れ

調査河川	調査地点	水域類型	pH	BOD	SS	DO	
			-	mg/L	mg/L	mg/L	
竹田川	下新橋	B	7.0	0.8	3	8.4	
	浦安橋	B	7.0	2.8	13	8.3	
	高間川末端	B	8.4	1.0	2	13.0	
	水屋橋	B	7.2	0.9	4	7.0	
熊坂川	田島川水門口	A	7.0	0.9	3	7.4	
	南部開発(株)排水口	A	7.5	0.7	12	6.9	
	笹岡橋	A	7.3	0.6	3	8.9	
権世川	治田橋	A	7.0	1.3	1	8.7	
	中川橋	A	7.0	0.7	1	8.7	
	中流(権世市野々区内)	A	7.0	0.5以下	1	9.1	
宮谷川	水口橋付近	B	7.4	0.9	3	9.0	
観音川	辻川末端	B	7.0	1.0	5	7.9	
	細呂木橋	B	7.2	1.1	4	6.1	
下金屋川	末端	A	7.3	0.5	2	8.2	
環境基準			A	6.5以上	2以下	25以下	7.5以上
			B	8.5以下	3以下		5以上



▲市ホームページ



▲環境省ホームページ

※水域類型とは、水質や利水状況などを考慮して、水域ごとに環境基準の目標レベル(類型)を定めたもの。

※A・Bは、環境省の定めた基準により振り分けされたもの。詳しくは、環境省のホームページをご覧ください。

※環境基準とは、人の健康を保護し、環境を保全するために維持することが望ましい基準のこと。
※赤字は環境基準値を超えた値を示す。

河川水質分析調査の結果、一部の地点で溶存酸素量(DO)が環境基準を超えましたが、全体としては良好な水質が保たれています。

令和7年度 北潟湖関係水質分析調査結果

令和7年7月24日 晴れ【前期】

令和7年11月4日 晴れ【後期】

調査地点	pH	COD	SS	全窒素	全リン	調査地点	pH	COD	SS	全窒素	全リン
単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
小牧末端	7.1	2.5	5	2.00	0.032	小牧末端	7.0	2.5	2	2.40	0.026
赤尾末端	7.1	2.2	1	3.70	0.013	赤尾末端	7.1	2.3	1	4.10	0.013
沢川末端	7.6	3.7	3	0.56	0.078	沢川末端	7.5	3.0	1	0.80	0.054
滝川末端	7.2	4.5	4	0.85	0.060	滝川末端	7.4	3.2	3	0.96	0.035
辻川末端	7.1	5.2	8	1.40	0.083	辻川末端	7.5	3.6	5	2.00	0.049
観音川	7.4	5.9	6	1.00	0.069	観音川	7.4	3.0	4	1.20	0.030
細呂木橋											
北潟湖	8.1	8.4	27	1.20	0.180	北潟湖	7.5	5.9	22	1.30	0.083
環境基準(類型)	6.5以上 8.5以下 (B)	5以下 (B)	15以下 (B)	0.6以下 (IV)	0.05以下 (IV)	環境基準(類型)	6.5以上 8.5以下 (B)	5以下 (B)	15以下 (B)	0.6以下 (IV)	0.05以下 (IV)

※B・IVは、環境省の定めた基準により振り分けされたもの。詳しくは、環境省のホームページをご覧ください。

北潟湖関係水質分析調査の結果、多くの調査地点で全窒素や全リンの数値が環境基準を上回り、北潟湖では多くの測定項目で環境基準を満たさない結果となりました。

■ 水素イオン濃度 (pH)

水溶液の酸性やアルカリ性の度合いを示す。pH7が中性、7を超えるとアルカリ性、7未満は酸性を示す。

■ 生物化学的酸素要求量 (BOD)

河川の汚濁の度合いを示す。値が高いほど汚濁が進む。

■ 浮遊物質 (SS)

水中に浮遊または懸濁している粒子状物質の量を示す。値が高いほど透明度が低下し、景観を損ねる。

■ 溶存酸素量 (DO)

水中に溶解している酸素の量を示す。値が低いと水生生物が窒息する原因となり、水質の浄化が遅れる。

■ 化学的酸素要求量 (COD)

湖沼や海域の汚濁の度合いを示す。値が高いほど汚濁が進む。

■ 全窒素

水中の窒素化合物の総量を示す。値が高いほど富栄養化が進み、水質が悪化する。

■ 全リン

水中のリン化合物の総量を示す。値が高いほど藻類が増殖し、透明度が低下する。